



附属図書館中央館での展示会の様子

館長挨拶

WELCOME TO THE 2021 KUMAMOTO UNIVERSITY ARCHIVES NEWSLETTER

2021年度4月より、熊本大学文書館長を拝命いたしました田中朋弘と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。昨年度に引き続いて今年度も、一年を通してコロナと折り合いをつけながら活動を続ける状況になりました。所蔵する資料に関する作業については、感染に十分注意しながら進め、他方で、資料の公開などについては、状況を見ながら、オンラインまたは対面での開催を実施致しました。

まず、4月15日に、オンライン展「闘争のこぼれ～石牟礼道子 苦海浄土第三部『天の魚』から読むピラ合戦」を開催しました。また、4月16日には、免田事件関係資料（所蔵資料）について、免田栄資料の資料目録を公開致しました。11月23～26日（火～金）の間には、文書館展示会を対面で開催し、<水俣病>関係

資料と免田事件関係資料を展示しました。オンラインでご閲覧いただいた皆様方、また展示会に直接足をお運びいただいた皆様方に厚くお礼申し上げます。

なおこうした活動はすべて、併任教員、特別研究員、文書館運営委員会委員、事務補佐員、文書館市民研究員（<水俣病>事件関係：5名、免田事件関係：3名）のご協力を得て、実現されております。特に市民研究員の方々のご協力に関しては、特段のお礼を申し上げたいと存じます。

2016年4月に設置された文書館は、2021年3月に新書庫を整備し、着実にその歩みを進めています。また小川学長のもと推進されている「熊本大学キャンパスミュージアム構想」の一翼を担い、ローカルにもグローバルにも、文化や歴史、学術の発展に資することができるように、努めてまいります。今後ともご支援・ご協力のほどをお願い申し上げます。

文書館長 田中朋弘

目次 Contents	
館長挨拶	1
文書館展示会	2-3
資料整理の様子 慶田先生講演 科学研究費採択状況	4
所蔵・公開資料 文書館市民研究員の活動 公開・資料利用 等	5
文書館の活動・奥付	6



文書館展示会

2021年11月23日（火）～26日（金）附属図書館中央館と黒髪北E102 文書館資料調査研究室にて水俣病事件と免田事件に関する資料の展示会を開催しました。4日間で延べ72名の方々にご来場いただきました。

水俣病関係資料からは「水俣からの想像力」をテーマに、プラスチックに取り囲まれた現代の生活とその原点としての水俣に焦点を当てました。展示内容は、第一次訴訟原告勝訴判決文1点、アセトアルデヒド製造工程フローシート1点、食品衛生法適用に関する厚生省の回答書1点、1971年「ビラ合戦」のビラ3点、プラスチックと環境汚染の関係等の解説パネル、緒方正人さんの著作3点です。展示作成にあたり、牧野厚史先生（大学院人文社会科学部・文書館併任教員）、下田健太郎先生（同研究部）、向井良人先生（熊本保健科学大学・文書館市民研究員）に多大なるご協力を賜りました。心より御礼申し上げます。

免田事件関係資料からは福岡刑務所から免田さんの父に宛てられた文書3点、2007年再審請求棄却決定の決定書1点を展示しました。当時は再審請求中は死刑執行を停止していたことや、再審無罪となっても一度確定した死刑

判決が取り消されたわけではないことなど、現在の死刑制度や再審制度が抱える問題を伝える資料です。

事件関係者から大学生、高校生まで幅広い来場者が訪れ、熊本で起きた社会問題に対する地域の人びとの関心の高さが伺えました。また、免田事件の展示には熊本県木村敬副知事のご来場があり、法学部・岡田教授（文書館併任教員）が資料解説を行いました。

展示資料目録

水俣病関係資料6点

- ・熊本水俣病第一次訴訟判決主文 熊本地方裁判所：1973年3月20日 1次訴訟判決1／熊地昭和44年(ワ)第522号ほか原告渡辺栄蔵ほか137名・被告チッソ株式会社間損害賠償請求事件 水俣病研究会資料（未公開、公開準備中）
- ・アセトアルデヒド製造工程「有機物合成に関する研究」：1963年3月25日 六期アルデヒド装置フローシート 岡本達明資料（未公開、来年度公開予定）
- ・食品衛生法適用の照会に対する厚生省の回答：1957年9月11日「水俣地方に発生した原因不明の中枢神経系疾患にともなう行政措置について」（コピー） 水俣病研究会資料（未公開、公開準備中）
- ・自主交渉派患者のビラ（工場前座り込み）：1971年11月4日「なぜわたくしたちはチッソ正門前に座り込んでいるのか一人間同士の話し合いを求めているのに返事をしないチッソ」水俣病研究会資料（資料ID：MD01-01-015）
- ・水俣市民有志のビラ：1971年11月9日「患者さん 会社を紛碎して水俣に何が残ると言うのですか！」水俣病研究会資料（資料ID：MD01-01-021）
- ・自主交渉派患者のビラ（患者の悲憤）：1971年10月30日「公開質問状（その2）」水俣病研究会資料（資料ID：MD01-01-010）

免田事件関係資料4点

- ・免田栄策宛て公文書（資料ID：MI01-03-002）
- ・免田栄策宛て公文書（資料ID：MI01-03-003）
- ・免田栄策宛て公文書（資料ID：MI01-03-004）
- ・決定 請求人免田栄 主文 本件再審請求を棄却する 熊本地裁（資料ID：MI01-03-033）

※すべて熊本大学文書館所蔵

会期	令和3年11月23日～26日
会場	熊本大学附属図書館中央館1階（23日） 熊本大学黒髪北E102 文書館資料調査研究室（24～26日）
後援	放送大学熊本学習センター
協力	熊本大学大学院人文社会科学部附属国際人文社会科学部 科学研究センター・学際的研究資源アーカイブ領域、 熊本大学附属図書館



附属図書館中央館での展示会の様子



本学黒髪北E102 文書館資料調査研究室での展示会の様子

プラスチック問題の原点：

いつごろ、どのように、私たちの生活は、プラスチックに取り囲まれるようになったのだろうか。その出発点を辿っていくと、1950年代の水俣にたどりつく。

プラスチックという呼び名は、ギリシャ語の PLASTIKOS（成形可能な）に由来する。形を変えることができる物質の総称で、主に合成樹脂とその成型品をさしている。加工しやすく、軽くて安価、しかも大量生産可能な便利な素材として、20世紀の間に急速に普及した。一方で、増え続ける廃プラスチックは、難溶解性という性質により、廃棄物問題の中心課題とされてきた。マイクロプラスチックは、海洋などの生態系への影響とともに、魚介類摂取を通じた人体への蓄積による健康リスクも注目されはじめている。

戦前、文具や玩具、合成繊維として生活に浸透し始めたプラスチックは、1960年代以降に石油化学にとって代わるまで、石灰石と電気、石炭を原料とする有機合成化学によって生産された。この製法に欠かせないのが、アセトアルデヒドの製造である。アセトアルデヒドから何種類もの中間製品がつくれ、それらをもとにプラスチック製品が製造される。

戦後、日本窒素水俣工場では設備を一新し、肥料生産から、アセトアルデヒド製造と、アセトアルデヒドを加工したプラス

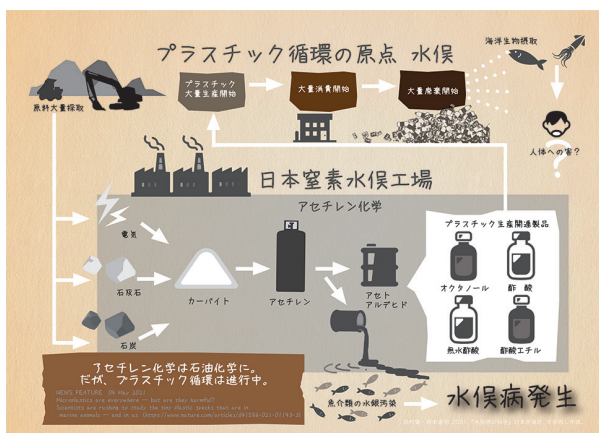
チックの中間製品生産に重点を移した。1950年代、新日本窒素水俣工場で製造された加工製品のひとつオクタンオールは国内市場を約10年にもわたり独占し、巨額の利益をもたらした¹⁾。こうして、水俣の人と海は、「プラスチック大量生産・消費→大量廃棄」という現代日本社会の巨大なモノの循環に組み込まれた。

そして、水俣の人と海が、この循環に組み込まれたことは、水俣病という、大規模な公害の発生につながった。プラスチック景気に水俣と工場が沸き立っていた1950年代は、水俣病の被害が顕著に拡大した時期と重なる。

アセトアルデヒドの製造には水銀が必要である。製造に使用された水銀は、工場からの排水路を通じて、水俣湾、さらには不知火海を汚染した。この工場由来の水銀こそが、被害をもたらした汚染物質の正体だった。水俣の人と海が日本社会のプラスチック循環に組み込まれ、人びとは食の営みを通じて汚染の被害を受けることになったのである。

1) 西村肇・岡本達明著,2001,『水俣病の科学』日本評論社。

水俣病関係資料展示会 展示パネルより



水俣病関係資料展示会 展示パネルより
左から「プラスチック循環の原点」「食品衛生法」

資料整理の様子



資料クリーニング



目録作成

2021年12月から熊大文書館にて資料整理に携わっています。資料の運搬・クリーニング・目録作成などは体力・気力を要します。そうした作業の上に資料の活用が実現するということを知り、大変さと共に、膨大な資料を整理することの重要性を実感しています。

私は主に水俣病関係資料の整理に携わりました。整理前の資料群には、水俣病問題以外の社会問題を扱う資料が混在していることがありました。それらを整理していく中で、別問題として捉えていた出来事が、実は互いに絡まり合いながら同時代に進行していたということを知りました。こうした経験が、自らの学びにもなっています。資料整理を通して、将来の研究をサポートできれば嬉しく思います。

(熊本大学大学院社会文化科学教育部 博士後期課程文化学専攻
歴史学領域文化史学 木原実咲)

慶田先生講演 熊本大学文書館と〈水俣病〉事件アーカイブズ研究



講演中の慶田先生

2002年に熊本大学構内へ移転し、2021年に30周年を迎えた放送大学熊本学習センターにて、記念式典および記念講演会が開催されました（2021年11月23日、3F大講義室）。

講演会では、放送大学熊本学習センター客員教授の慶田勝彦先生（大学院人文社会科学部、文書館併任教員）が、文書館と連携して推進されてきた岡本達明資料の収集・整理・公開についてお話されました。文書館でも、チッソ水俣工場第一組合委員長を務めた岡本達明氏が松崎次夫氏とともに編纂した『聞書水俣民衆史』、そして『水俣病の民衆史』の原資料（カセットテープ、書き起こし等）のこれからの、資料利用者や水俣地域在住者と共に考えていきます。

科学研究費採択状況

基盤研究(A)「水俣病事件の記憶術と（脱）アーカイヴ構築—未来の人文社会科学的総合研究に向けて」研究代表者：慶田 勝彦、2016～2020年度、4,576万円

基盤研究(A)「21世紀における他者の痛みの交差性：〈水俣病〉事件アーカイブズ研究の人類学的展開」研究代表者：慶田 勝彦、2022～2026年度、4,186万円

若手研究「水俣病関係写真の歴史性に関する人類学的アーカイブズ研究」

研究代表者：香室 結美、2020～2021年度 416万円

所蔵・公開資料



大学史

熊本総合大学期成会資料(2,050点)
熊本大学30年史編集室資料(1,031点)
熊本大学応援団資料(9点)
熊本高等工業学校採鉱冶金学科関係資料(229点)
熊本大学医学部附属病院移管資料(49点)
山崎正董関係資料(59点)
福田昇八資料(186点)
岳中典男資料(164点) ほか

熊本地域

末吉駿一コレクション(3,957点)
安永蒞子関係資料(120点)
熊本地域文化財・遺跡関係資料(179点)

免田事件

免田栄資料(861点)
※2021年度末時点

水俣病

水俣病研究会資料(285点)
※2020年度末時点, 順次公開中
岡本達明資料(3,771点)
※2020年度末時点, 順次公開中
衛藤光明資料(98点)
甲斐文朗資料(8点)
熊本大学大学院生命科学研究部細胞病理学分野資料(252点)
丸山定巳資料(4211点, 図書 2245点)
徳臣晴比古資料(214点)
チッソ水俣病関西訴訟関係資料
※公開準備中 ほか

文書館市民研究員の活動

資料整理・研究に関わる業務にご参画いただいております。
ご協力誠にありがとうございます。(以下、敬称略)

▶ 免田事件関係資料担当

高峰 武, 甲斐 壮一, 牧口 敏孝

[著作・出演映像]

『生き直す 免田栄という軌跡』高峰武, 弦書房, 2022
第91回 現場発「死刑台からの手紙 免田栄の1400通」KKT, 2021
ストーリーズ 事件の涙「“無実の死刑囚”の遺言 ～免田栄 えん罪事件～」NHK, 2022

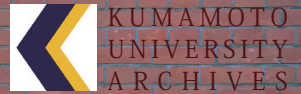
▶ 水俣病関係資料担当

富樫 貞夫, 入口 紀男, 有馬 澄雄, 阿南 満昭, 向井 良人

[講演・企画展]

富樫貞夫講演会「関西訴訟の法学的評価とその影響」2021
文書館展示会 水俣病関係資料「水俣からの想像力」2021

熊本大学文書館
2021年度報告
NEWSLETTER



公開・資料利用等

2020年度

ウェブ目録・資料概要公開(8258点)
寄贈受入れ(3件)
レファレンス・資料管理・寄贈相談(6件)
資料利用(2件・13点)
見学(2件)
メディア掲載・放映(16件)

2021年度

ウェブ目録・資料概要公開(756点)
寄贈受入れ(0件)
レファレンス・資料管理・寄贈相談(7件)
資料利用(14件・671点)
見学(3件)
メディア掲載・放映(8件)

[YouTube]

熊本県民テレビKKT公式チャンネル「冤罪『免田事件』資料が語るもの」<https://www.youtube.com/watch?v=cGdLyCzlu0w>

『NDキュポケット』NNNセレクション「無罪の死刑囚～免田栄は問い続ける～」制作：熊本県民テレビ
https://www.youtube.com/watch?v=wNOv_mlzqj0

文書館設置～2021年度の主な活動



- | | |
|--|--|
| <p>2016年度
04.05 文書館設置（初代館長・古島幹雄）</p> <p>2017年度
11.02-06 写真で振り返る「熊本大学の歴史」展開催</p> <p>2018年度
05.16 広島大学文書館と業務協力に関する協定締結
06.25-29 広島大学文書館公文書管理実務研修参加（特別研究員1名）
08.27-31 国立公文書館 アーカイブズ研修Ⅰ参加（特別研究員1名）
09.06 第1回文書館運営委員会
10.02 ホームページ公開
12.12 第2回文書館運営委員会
03.08 文書館市民研究員2名（免田事件関係資料担当）委嘱状交付</p> <p>2019年度
04.01 館長交代（第二代館長・山田秀）
04.01 本館ウェブサイト「所蔵資料」公開目録更新
05.20 第1回文書館運営委員会
06.13 文書館支援事業（熊本大学基金内）創設
07.25 第2回文書館運営委員会
08.05 第3回文書館運営委員会
09.11 熊本放送・熊本日日新聞社と資料利用に係る覚書締結
09.17-30 文書館企画展「地の塩」の記録—免田事件関係資料展／免田ご夫妻トーク開催
09.19 本館ウェブサイト「ギャラリー」（現デジタルアーカイブ）開設
09.25 第4回文書館運営委員会
10.01 文書館市民研究員5名（水俣病関係資料担当）委嘱状交付
10.28 本館ウェブサイト「所蔵資料」公開目録更新
11.19 第5回文書館運営委員会
03.25 第6回文書館運営委員会
03.31 本館ウェブサイト「所蔵資料」公開目録更新</p> | <p>2020年度
04.27 第1回文書館運営委員会（書面会議）
05.22 第2回文書館運営委員会（書面会議）
06.24 第3回文書館運営委員会
08.19 国立公文書館 公文書管理研修Ⅰ参加（特別研究員1名）
08.27 第4回文書館運営委員会
09.15 チッソ水俣病関西訴訟関係資料の寄贈に関する覚書調印式（オンライン）
11.12 第5回文書館運営委員会
12.07-08 国立公文書館 公文書管理研修Ⅱ参加（オンライン、特別研究員1名）
01.29 第6回文書館運営委員会
02.22 第7回文書館運営委員会（書面会議）
03.02 文書館書庫 竣工式
03.18 第8回文書館運営委員会（書面会議）
03.27 富樫貞夫先生講演「関西訴訟の法学的評価とその影響」（水俣病研究会、本館市民研究員）
03.31 ニューズレター創刊号 発行
03.31 本館ウェブサイト「所蔵資料」公開目録更新</p> <p>2021年度
04.01 館長交代（第三代館長・田中朋弘）
04.01 文書館市民研究員1名（免田事件関係資料担当）委嘱状交付
04.15 オンライン展「闘争のことは 石牟礼道子 苦海浄土第三部『天の魚』から読むピラ合戦」開催
04.16 本館ウェブサイト「所蔵資料」公開目録更新
04.20 第1回文書館運営委員会（書面会議）の開催
08.06 第2回文書館運営委員会の開催
11.23-26 文書館展示会の開催
03.03 第3回文書館運営委員会の開催
03.24 第4回文書館運営委員会（書面会議）の開催
03.31 ニューズレター第2号 発行</p> |
|--|--|

組織・スタッフ

館長	田中 朋弘	事務補佐員	中山 智尋	【運営委員会】	
併任教員	慶田 勝彦		西 絢子	委員長	田中 朋弘（文書館長）
	岡田 行雄		古川 洋子	委員	慶田 勝彦（大学院人文社会科学研究所教授）
	牧野 厚史		古田 絵里	委員	春田 直紀（大学院人文社会科学研究所教授）
特別研究員	香室 結美	文部科研 事務支援者	阿南 満昭	委員	岡田 行雄（大学院人文社会科学研究所教授）
			山本 彬子	委員	濱崎 千雅（図書館課長）
				委員	入口 英典（総務課長）
				委員	香室 結美（文書館 特別研究員 / 特任助教）

熊本大学文書館 2021年度報告 ニューズレター 第2号

発行日 2022. 3. 31
編集発行 熊本大学文書館

〒860-8555 熊本中央区黒髪2丁目39-1
（南キャンパス・旧共用棟黒髪4）
TEL 096-342-3951 FAX 096-342-3952
Email : archives@jimu.kumamoto-u.
ac.jp

利用案内

開館日 月～金
休館日 土・日・祝 / 年末年始 / 夏季一斉休業日 / その他 臨時休館日
利用時間 10:00～16:30
業務 (1) 閲覧 (2) 撮影複写 (3) 貸出し (4) レファレンス (5) 展示
※いずれも要事前連絡
※資料複製の郵送・メール送信は行っておりません

